

本文タイトル：2021 年度 TLP ドイツ語春季研修

2021 年度 TLP ドイツ語春季研修では、コロナ禍でいまだ現地での研修が実施できないなか、ハンブルク市からの支援を得て、港湾都市としてのハンブルクと東京を比較するビデオをドイツ語で作成するグループワークを実施しました。これは東京大学トライリンガル・プログラム (TLP) ドイツ語に参加し、インテンシブなドイツ語授業を 1 年間履修した学生を対象として、応用的なプロジェクトのなかでドイツ語運用能力を磨くことを目的として行われたものです。まず、2021 年 11 月から翌 2022 年 2 月にかけて、ドイツ人講師によるビデオ映像作成やプレゼンテーション技術を習得するためのワークショップが複数回開催されました。そして、ワークショップでの学びを活かして、東京とハンブルクを比較するプロモーションビデオを制作しました。この研修の締めくくりとして、5 月 31 日にはプロモーションビデオのプレゼンテーションイベントを開催し、クレームンス・フォン・ゲッツェ駐日ドイツ大使から、学生グループに対し賞状と記念品が授与されました。

参加した学生の声：

今回の研修では、今後の学びやドイツに対する興味を深められただけでなく、ドイツ語を使いドイツについて学ぶという点で、夏季研修と同様、非常に有意義な研修になったと思います。

これまでの研修内容は来夏に行われる予定のハンブルクでのドイツ語研修にも役立てられるだろう。ドイツ語はもちろん、学生交流や授業で学んだ主体性、ビデオ作成で身につけた発信力も重要となるはずだ。

次回こそはドイツ現地で TLP 研修が開催できることを願い、そのためにもあと半年間のプログラムに精力的に取り組んでいきたい。そして、今回の研修で味わった悔しさをバネに、語彙力を増やし詰まることなく言いたいことを言えるように、前より勉強時間を増やして勉強していきたい。

夏季研修もオンラインでの実施になってしまうのか不透明ではありますが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、TLP ドイツ語履修者全員でドイツに行けることを期待しています。

(文責：ドイツ・ヨーロッパ研究センター特任助教 川崎聡史)